

施策評価シート (平成24年度の振り返り、総括)

作成日 平成25年 06月 26日

施策 No.	10	施策名	青少年の健全育成
主管課名	生涯学習課	電話番号	0285-82-7151
関係課名	三つ子の魂育成推進室、児童家庭課、学校教育課、商工観光課		

施策の対象	市内の未成年(20歳未満の市民)(各年4月1日住基)								
対象指標名	単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	26年度見込
市内の未成年の数	人				15,520	15,368	15,169	15,703	

施策の意図	心豊かにたくましく育てもらう。健全な育成を図る。								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法(算定式など)	<ul style="list-style-type: none"> ・「青少年の不良行為を市が指導した人数」は、指導員の街頭指導による集計結果。 ・「警察に補導された青少年の数」は、真岡警察署が作成した統計のなかの不良行為少年の数 ・「子ども会の会員数」は、単位子ども会の補助金申請書による集計結果 ・「こども110番の家」看板の設置の数 ・青色回転灯搭載車(指導センター)の街頭指導の回数(平成21年8月開始) 								
成果指標名	単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	26年度基本計画目標値
青少年の不良行為を市が指導した人数	人				94	99	96	56	80
警察に補導された青少年の数	人				924	1,087	969	616	800
子ども会の会員数	人				5,478	5,337	5,357	5,282	7,000
こども110番の家看板設置数	件				1,435	1,430	1,425	1,403	—
青色回転灯搭載車の指導回数	回				265	383	342	266	—

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	「地域の子どもは地域で育てる」という意識の醸成を図るため、市民は地域において青少年の育成の場をつくり、行政は地域と共に青少年の社会参加の場をつくるための支援や青少年を取り巻く環境の整備を図る。
-------------------------	--

24年度の
評価結果

1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）

(1) 施策成果の時系列比較（過去3年間の比較）

・市少年指導センターの平成24年度の指導件数は、前年度に比べ40件減少した。

(2) 近隣他市との比較

・近隣他市との比較では、未成年者1,000人あたりの街頭指導件数が、県内センター12市（未設置：那須烏山市・下野市）のうちで、件数の多い順から平成22年度が7番目、23年度が7番目、24年度は9番目であり、低い位置にある。

・県内青少年指導センターにおける街頭指導件数は、減少傾向にあり、指導内容は、自転車に関する指導、学校帰りの遊び等が主なものである。

・本市内では、青少年に有害と思われるポスターや看板は皆無である。

(3) 住民期待水準との比較

・市民意向調査のまちづくりで力を入れてほしい施策のうち、「青少年健全育成」については、平成22年度は13.4%、23年度は13.8%、24年度は11.5%とやや低い傾向である。

2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括

・市では、少年指導センターの運営・ジュニアリーダーの育成・家庭教育学級の開設等を行い、地域では青少年健全育成連絡会や子ども会育成会において、青少年の健全育成を推進している。

また、子ども会育成会長と学校長との話し合い事業も行っており、子ども達の健全育成に向けて学校とともに推進している。

・少年指導センターでは、72名の少年指導員（教諭、地域の学識経験者）が年間を通して、市街地、公園、列車、書店などの巡回指導を行い、平成23年度から、通常指導の15コースのほか、随時巡回コースとして8コースを新たに加えて指導の強化を図った。

・平成21年度から少年指導センターに青色回転灯搭載車3台を導入し、日常の街頭指導活動をさらに強化して、青少年の初発型非行の防止に努めている。平成24年度は、安定した指導体制を確保するため、指導班を1班当り8名から10名体制に変更した。

・家庭教育学級については、市内小・中学校、幼稚園、保育所を対象に41学級を開設した。

・市青少年健全育成連絡協議会では、青少年健全育成都市宣言(平5)の普及啓発、「子ども110番の家」看板管理運営等を行い、健全育成の事業を展開している。

・平成23年度から、「真岡っ子をみんなで育てよう事業」を、市青少年健全育成連絡協議会が実行委員会を組織し、公演とフォーラムを実施した。

子ども会活性化事業として、いちごテレビの放映や広報に掲載して、育成会の活動のPRを行った。

・中学生夏祭り参加支援事業は、夏祭りを通してふるさと意識の高揚や地域との連帯感を培うため、毎年実施している。

24年度の 評価結果	<p>3. 施策の課題認識と改革改善の方向</p>
	<ul style="list-style-type: none">・少年指導センターにおいては、引き続き関係機関とより連携を密にして、青少年非行の減少に努めていく。・家庭や地域においては、子どもとの関わりの重要性を認識し、みんなでつくる地域づくり事業の中の「地域子どもすくすく元気事業」を取り入れた世代間交流の場を増やしていくよう支援していく。・子ども会育成会は、各地区連絡協議会と連携を図り、事業、活動を推進し、会員数を増やしていく。・青少年の健全育成には家庭教育の充実が欠かせないことから、家庭教育の重要性・必要性を学級通信等を通して、周知に努める。・「真岡っ子をみんなで育てよう事業」を市青少年健全育成連絡協議会が主催して、公演やフォーラムを継続的に実施していけるように支援をしていく。
補足事項	